

## 第2回稲沢市観光基本計画推進委員会 会議録

【日 時】平成31年2月22日（金）午後2時～午後3時36分

【場 所】稲沢市産業会館1階 大会議室

【出席者】稲沢市観光基本計画推進委員会委員（敬称略）

委員長	大澤 健	和歌山大学経済学部教授
副委員長	鈴木 隆	一般社団法人愛知県観光協会専務理事
委 員	栗林芳彦	名古屋文理大学情報メディア学部情報メディア学科教授 ・地域連携センター長
	西村哲治	公益社団法人日本観光振興協会中部支部事務局長
	古川正美	稲沢市観光協会事務局長
	野村 修	平和町商工会事務局長
	河村宏一	愛知西農業協同組合農産部部長
	松田雅之	尾張大國霊神社権禰宜
	塩治康人	国土交通省中部地方整備局木曾川上流河川事務所河川公園課長
	伊藤哲浩	愛知県振興部観光局観光振興課長
	後藤洋哉	公募市民
	浪上永子	公募市民

【事務局】 岩間福幸 稲沢市経済環境部長  
久留宮庸和 稲沢市経済環境部商工観光課長  
横井利幸 稲沢市経済環境部商工観光課主幹  
大屋 将 稲沢市経済環境部商工観光課主査

### 【会議次第】

- 1 委員長あいさつ
- 2 協議事項
  - (1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について
  - (2) 次年度の取組方針について
  - (3) その他
- 3 その他

### 【会議の概要】

[事務局]

皆様こんにちは。定刻となりましたので、ただ今から稲沢市観光基本計画推進委員会を始めさせていただきます。本日はお忙しい中、ご出席をいただき誠にありがとうございます。私は、この会議の進行を務めます稲沢市経済環境部商工観光課長の久留宮庸和です。よろしくお願ひいた

します。

はじめに、会議の開催に当たり大澤委員長からごあいさつを頂戴したいと思います。

## 1 委員長あいさつ

[委員長]

皆様こんにちは。今年のちょうど今頃「稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）」が出来上がり、キックオフシンポジウムを開催したことを先ほど感慨深く思っていました。それから1年が経過し、本日計画の進捗状況について皆様にご議論いただく訳ですが、この1年でいろいろな風が稲沢市に吹いてきたような気がしています。今年のキックオフシンポジウム自体が「これから観光まちづくりをやっていこう」という気力が大いに感じられる場であった訳ですが、その後も愛知県観光交流サミットが秋に開催され、後ほど実施結果について事務局から報告があると思いますが、大変盛況のうちに終わりました。こうした流れの中でいろいろなモノがブレイクしかけていて、実際にブレイクしたものもあって、「次はどういうことをやっていこうか」というワクワク感が今年1年間ありました。いろいろな夢を語れるようになった状況の中で、皆様から活発なご意見をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[事務局]

ありがとうございました。次に2点、ご報告とお願いをさせていただきます。

初めに本日の会議ですが、服部正見委員、山田 洋委員、壁谷知宏委員及び林 和伸委員から欠席のご連絡をいただいておりますことをご報告いたします。

2点目として、本日は会場が広くなっておりますので、ご発言いただく際はマイクをお使いいただきますようご協力をお願いいたします。

それでは、これより議事に移らせていただきます。本日の協議事項は、お手元のレジメに記載のとおり、「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況について」、「次年度の取組方針について」、「その他」の3点となります。

委員の皆様から活発で忌憚の無いご意見をいただき、その内容を今後の計画の推進に反映していきたいと考えております。限られた時間ではありますが、ご審議賜りますようよろしくお願いいたします。会議の議事進行につきましては、本委員会の設置要綱の規定により、委員長が務めることになっておりますので、以後の会議の取り回しにつきましては、大澤委員長にお願いいたします。

## 2 協議事項

(1) 稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について

(2) 次年度の取組方針について

[委員長]

これより議事に入りたいと思います。

最初に協議事項（1）稲沢市観光まちづくりビジョン（第2次稲沢市観光基本計画）の進捗状況について 及び 協議事項（2）次年度の取組方針について、関連しますので事務局から一括して説明をお願いします。

= [事務局] =

【資料1「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)の進捗状況(平成30年度年次報告書)」及び資料2「稲沢市観光まちづくりビジョン(第2次稲沢市観光基本計画)アクションプラン進捗状況(平成30年度実績)」に基づき説明】

[委員長]

事務局からの説明が終了しました。いろいろな要素の説明が一度にありましたが、ざっくりばらんに皆様からご意見、ご質問等をいただければと思います。いかがでしょうか。

率直に言って、観光入込客数がとても増えています。特に「そぶえイチョウ黄葉まつり」がものすごく火が付いてきていて、善光寺東海別院や荻須記念美術館など周辺施設への拡大も見られます。いろいろなツアーを組んでくれた旅行会社が多かった結果だと思います。その意味で愛知デスティネーションキャンペーン(以下「愛知DC」という。)の効果もかなりあったと思います。

[委員①]

先ほど『(仮称)美濃路稲葉宿本陣跡ひろば』の整備を進めている」との説明がありました。本陣を具体的に復元するのではなく、「跡地に街道観光の中心的な施設を整備する」という話だと思いますが、中身はどのようなものを考えているのでしょうか。

[事務局]

約1,900㎡の土地になりますが、そこに何かを復元することは過去の資料が存在せず不可能です。そのため、かつての美濃路の雰囲気や本陣の姿を彷彿させるような門や塀、その奥に芝生広場と外観に統一感を持たせた倉庫を整備する予定です。今年度中に設計業務を終え、次年度からは整備工事に取り掛かる計画となっています。

[委員①]

街道観光について、いろいろな有識者の方から話を聞く機会があります。その中で、由比にある志田邸の持ち主の方が街道観光にとっても詳しく、ある時に某市長から「街道観光の施設を作りたいが、何を作ったらいいか」との相談を受けたそうです。そして、実際にお勧めしたのが、「昔の高札場を復元すること」だったそうです。復元自体も簡単で、それほど大きなものでなくても非常に雰囲気が出ます。また、小学生に見てもらって、「この地域は昔〇〇だった」ということを学んでもらうのにも大変効果が高いと仰っていました。一つのアイディアとして、参考にしていただけだと思います。

[事務局]

少し補足をさせていただきます。今回整備を予定している場所は、かつて中島郡役所があった所でもあります。明治時代に郡長がみえた郡役所の跡地です。そして、この土地は愛知県から購入した土地でもあります。少し前まで県の農業改良普及所や保健所があった場所で、両施設が別の場所に移転したため、その跡地を稲沢市が購入したものです。さらにそこには「美濃路本陣跡」の石碑があり、これを揮毫されたのがかつて愛知県知事を務められた桑原幹根さんです。石碑は

現在別の場所で保管していますが、これを再び当地に戻し、美濃路の宿場の雰囲気を感じさせるような仕様で整備を進めていく考えです。ご提案のありました高札場につきましては、整備の中に盛り込めるようであれば検討させていただきます。

[委員長]

良いアイデアをいただきましたので、実現できるように努めていただければと思います。

[委員②]

美濃路のルートは清須方面からずっと続いています。美濃路を今後活用するのであれば、稲葉宿本陣跡があった本町通りだけでなく、大里東小学校前など市内道中のあちこちに石碑が建っていますので、一つのコースとして考えていくべきではないかと思えます。そうすれば、より盛況になると思えます。

[委員長]

今回整備される場所は観光ガイドの皆さんにとってもかなり思い入れもある場所で、先ほど事務局から紹介があったように「いなざわ観光まちづくりラボ」のプロジェクトの中にも含まれています。美濃路観光の拠点が出来ることを機に、「コース整備もしっかりとやっていこう」という機運が観光ガイドの方々を中心に表れることを期待していますので、委員の皆様も見守っていただければと思います。

[委員①]

先ほどの話の補足になりますが、高札は市民や民間の協賛によって建てられたそうです。高札の柱に協賛者の名前を入れれば、それを見るために来訪する人も現れます。

[委員長]

民間の知恵と資金を引き出すような仕掛けも考えていただければと思います。

[事務局]

「ブラあいち」という愛知県建設部河川課の事業があり、尾張部では昨年蟹江町で実施されました。また、3月2日には犬山市で実施されると聞いていますが、来年度この事業を建設部署と連携し、稲沢市で実施できないかと考えています。「(仮称)美濃路稲葉宿本陣跡ひろば」は未だ完成していませんし、「美濃路」のテーマで採用されるかは分かりませんが、県内に本市の魅力を発信する機会として活用していきたいと考えています。

[委員①]

「そぶえイチョウ黄葉まつり」が大変好評だったという報告を聞き、県としても大変嬉しく思いますが、「インバウンドの取り込み」という点ではいかがでしょうか。外国人来場者の割合について、もし分かれば肌感覚でも良いので教えてください。

[事務局]

具体的な数値まで把握はしていませんが、稲沢市観光協会で現地アンケート調査を実施した際、外国人の方に話を聞く機会も何度かありました。あくまで肌感覚になりますが、人数自体は増えてきていると思います。

[委員①]

先ほど事務局の説明の中で「Wi-Fi 環境の整備」の話がありました。稲沢市は来年度国府宮駅で整備をされるそうですが、海外向けに観光情報が拡散されると、外国人旅行客は大勢で一気に訪れる傾向があるそうです。そうなった場合に「多言語情報をいかにして提供するか」ですが、通訳ガイドを置くだけではとても対応しきれません。一番良い方法は、スマートフォンで自国の言語を表示させて自ら情報を取ってもらう形です。多言語によるコンテンツ作成も同時に必要となりますが、Wi-Fi 整備はなるべく早く着手されたほうが良いと思います。

[事務局]

少し物足りないかもしれませんが、来年度は先ほど説明した「国府宮駅の Wi-Fi 環境整備」に加え、稲沢市観光協会のホームページの多言語化を行う計画があります。こうした取組を今後の展開を考えるキッカケにしていければと思います。

[委員長]

「そぶえイチョウ黄葉まつり」については、外国人の来場者数を測定したほうが良いかもしれませんが、このことが県の各種調査に役立つことはもちろんですが、それ以上に市民に対して「外国人がこんなに多く訪れている」ということを周知するため、また「実は稲沢市は世界からも注目されている」という話題を作る上で大いに役立つのではないかと思います。

私も昨年「そぶえイチョウ黄葉まつり」を実際に訪れましたが、肌感覚として「外国人が結構来ている」という印象を持ちました。実際にリアルな数字を出すと、「市民の稲沢市の観光に対する捉え方」も変わるのではないかと思いますので、ご検討いただければと思います。

もう1点、「そぶえイチョウ黄葉まつり」の会場付近だけでも Wi-Fi を飛ばせるようにしておけば、頼まなくても勝手に情報を拡散してくれる人はたくさんいると思います。Wi-Fi スターションのような場所を設けて、そこから SNS に投稿できる環境さえ作っておけば、各自が多言語で発信してくれるはずです。そうした取組も大変効果的ですので、ご検討ください。

[委員②]

昨今情報の伝達方法として「SNS の活用」が当然のように語られていますが、私は全く使うことができません。そのため、「情報を知らない」、「情報が全く入ってこない」ということが度々あります。SNS 上だけで情報発信がされると、使っていない人達、使えない人達には何も情報が入ってきません。事務局からの説明の中で、「市民に観光の取組が十分知られていない」という話がありました。私も含め稲沢市民の4分の1は高齢者です。その中には SNS を使いこなせない人がたくさんいます。しかし、こうした人たちが実は一番よく動きます。ボランティア活動も積極的にされています。観光ボランティアの育成の話も先ほどありました。稲沢市観光協会のボラン

ティアが最初に募集されてから10年以上が経ち、その間に育成も行ってきましたが、近年は活動人数が少なくなってきました。稲沢市で観光ボランティアを育成するためには、60歳以上の人をいかに巻き込むかが重要だと思います。高齢者と言っても、今の60代、70代の方々は非常に元気で、ボランティア活動に対する関心も高いです。SNSを使った情報拡散は必要だと思いますが、上手に使いこなせない人たちにいかに情報を伝えるか、声掛けやチラシ配布等による伝達方法も必要だと感じます。そうした部分にも是非目を向けていただきたいと思います。

[委員長]

会議が始まる前に事務局と「市民に対してもっといろいろな方法を使ってPRしたほうが良いのではないか」という話をしました。稲沢市民だったら、本日示された「年間観光入込客数」の数値を見たらとても驚くと思います。一方で、「稲沢市の『観光振興』に対する市民満足度」や「稲沢市に対して誇りや愛着を持つ市民の割合」が下がっているという事実もそのまま出して構わないと思います。「この数値を上げるために稲沢市は観光に取り組んでいる」というPRと、「そのために観光まちづくりの取組に参加してくれる人達を広く募集している」ということをデジタルサイネージをはじめ、市が持っている様々な市民向けの広報媒体を活用して、「具体的にどこに行けば参加できるのか」とか、「誰に連絡すれば良いのか」という具体的な情報と合わせて提供していただくと良いのではないかと思います。「定年退職したものの、これから何をしようか」と思っている人々が愛知県は総じて周辺部に多い傾向にありますので、そうした方々が地域で活躍できる場を市で積極的に作っていただけると、もっと観光が盛り上がるのではないかと思います。ラボの参加メンバーの中には、頼んでもないのに自発的に活動してくれる人が結構いますので、そうした方々をどんどん増やしていただきたいと思います。

[委員③]

先ほど周知方法の話がありましたが、私勤め先で広報を担当しており、実は先日中日新聞の朝刊に載りました。その後多くの方々からお声掛けをいただき、新聞という媒体、この地域では「中日新聞による影響が非常に大きい」と正直感じました。地元の方々、特に年配の方々に情報を届けるには、何より有効な手法ではないかと思います。

[委員①]

先ほど勝幡城の話がありましたが、来年のNHK大河ドラマは明智光秀が主人公の「麒麟がくる」ということで、織田信長公が再びクローズアップされると思います。現在小牧市が積極的な取組をされていますが、稲沢市もこの機会を捉えて上手くPRしていただきたいと思います。城郭愛好家の方々は、お城があった場所に行けば自ずとイメージができるそうです。仮に城跡の碑しか無くても、満足して帰って行かれるそうですので、勝幡城も上手く宣伝することが大事だと思います。

[委員長]

稲沢市は来年度「信長推し」で行くそうです。愛知県観光交流サミットに参加された方はお聞きになったと思いますが、城郭研究の一番の大物である千田嘉博先生が勝幡城のことを大変熱く

語っていたことがとても印象に残っています。「こんなプロがこんなに熱く語るシーンがあるのか」と大変驚いたことを覚えています。その際、「現地には見るものが無い」という残念な話もされていきました。地域が盛り上がってくると、整備計画の話も後追いで出てくるかもしれませんので、そうした展開も見据えつつ、「歴史の語り部」となるボランティアの方々の育成も同時に進めていただければと思います。

[委員②]

信長公の話は勝幡城だけでなく、「長光寺の井戸水を使ってお茶を飲んだ」など地元の人達はよく知っています。こうした人達を上手く活用できると良いと思います。

[委員長]

稲沢市では、来年度市に眠る信長公の謂れや資源を掘り起こし、「(仮称) 信長本」という冊子にまとめる作業を行うそうですので、「こんな話を載せたらどうか」とか、「こんな逸話が実は残っている」といった素材があれば、どんどん提供していただければと思います。ちなみに冊子の配布は紙媒体で行うのですか。

[事務局]

はい。紙媒体での配付になります。

[委員長]

ご高齢の方から小中学生まで広く配っていただくことで、信長公の話が稲沢市民の新たなアイデンティティになることを期待しています。

[委員④]

観光客がこの先どんどん増えることで、地元にお金が落ちる。その結果、地域に活力が生まれれば、「少子化」や「人口減少」といった課題の解決にも繋がっていくのではないかと感じています。今後、「人口の推移」なども参考値として発信しても良いのではないかと思います。

また、SNS について、高齢の方はあまり得意ではないかもしれませんが、若者は「稲沢市・観光」、「稲沢市・旅行」といったキーワードで検索することが当たり前になっています。Instagram <sup>インスタグラム</sup>などで写真をアップする時代が今来ていますが、今後は動画発信が中心になってくると思いますので、こうした媒体を積極的に活用していただくと良いかと思います。

[委員長]

稲沢市が魅力的なまちになれば、世代交代して人口が再び増えてくるのではないかと思います。現在は人口の後退時期ですが、先ほど委員がおっしゃられた「少子化」や「人口減少」といった「地域の課題の解決を目指して観光まちづくりに取り組む」ということが稲沢市のブレない方針ですので、今後も見守っていただければと思います。

[委員⑤]

農協の関係で言えば、産直店舗が主流になると思います。先ほど事務局から参考指標として、

一色下方店における平成30年中の来訪者数が「196,200人」という説明がありましたが、この施設は昨年4月にオープンした新店舗で、「いかに集客するか」を常に考えながら運営を進めています。昨年10月から海産物コーナーを導入しましたが、生ものが未だ販売できていないのが現状です。施設の設備が未だ十分でなく、干物や加工品しか置いていませんので、これからの店舗づくりを考える中で、新たに鮮魚をイベント的に販売できるよう既存施設の改修も検討しています。「地域の方々にとって必要な物をどれだけ提供できるか」を念頭に今後も取り組んでいきたいと思っております。

[委員長]

「4月以降で約20万人の来訪があった」ということですので、来年は確実に人数が増えることが明らかです。また、「施設の充実も行っていく」という話も伺いましたので、次回の報告を楽しみにしています。

[委員⑥]

サリオパーク祖父江について、先ほど事務局からも説明がありましたが、今年度ラボのメンバーの方々にも協力していただき、「来年度社会実験を行う」という部分まで整理できました。サリオパーク祖父江の一年間を通じた利用という観点で、稲沢サンドフェスタについては今年度から稲沢市に受け持ってもらいましたが、その開催前に当たる7月上旬に社会実験を行いたいと思っています。社会実験の中身ですが、サリオパーク祖父江は日本でも数少ない河畔砂丘であることが売りなので、砂を復元し、その場所でビーチ利用をしてもらい、販売等の営利行為を含め「何が出来るか」を実証したいと考えています。私どもが管理する国営木曾三川公園13拠点の中で、観光分野の方々と連携して何かに取り組むのは初めてのケースですので、いろいろと相談しながら進めていきたいと思っています。社会実験については、1年だけでは効果が満足に測れないと思うので、少なくとも再来年までしっかりと予算を確保していきたいと考えています。観光部署との連携を今後も大切にしていきたいので、この会議はとても大事な場であると考えています。

[委員長]

稲沢市を実験台にして、素敵なモデルケースを是非作っていただきたいと思っております。

本日「稲沢市観光まちづくりビジョン」の進捗状況の報告をいただきましたが、最初に掲げた数値目標がとても大事で、稲沢市のブレない姿勢をしっかりと示していただいていると思っています。はじめに「観光入込客数」という訴求力が高い指標を掲げています。観光ですので来訪者への訴求力が高いことは当然です。2つ目に「市民の満足度」と「市への誇りと愛着度」という指標です。これが非常に大事です。そして最後に出てきた指標が「観光消費額」です。お金が落ちる仕組みをしっかりと作っていくことです。これらが大きな三つの柱になって、今後取組が進められていくことになると思います。「自らの役割をしっかりと果たしていくことが重要」との話が市からありましたが、それぞれの取組の中で、本日出席されている委員の皆さんも連携の相手として随所にちゃんと出てくるのが説明を聞いていて非常に良いと思えました。「目標を達成するためにはどうしたら良いか」、「数値を向上させるためにはどうしたら良いか」について、積極



的に連携しながら市と一緒に取り組んでいただくと、数値はすぐに上昇すると思います。その意味で、皆さんには実際のプレイヤーとしての活躍も是非お願いしたいと思います。

[委員長]

他にご質問等も無いようですので、委員の皆様にお諮りいたします。

協議事項1「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況について」及び協議事項2「次年度の取組方針について」は、本日委員の皆様からいただいた意見等を今後の取組に反映し、成果指標の達成に繋げていくということによろしいでしょうか。

<「異議無し」の声>

[委員長]

ご異議も無いようですので、事務局は今日いただいた意見等を踏まえ、観光まちづくりビジョンの取組を練り直していただければと思います。

### (3) その他

[委員長]

続いて、協議事項3「その他」に移ります。

先ほどの協議内容に限らず、委員の皆様から広く稲沢市の観光についてご意見、ご質問等があれば、ご発言ください。

[委員②]

「市内にお金を落とす」という話について、祭りの際、例えば「そぶえイチョウ黄葉まつり」だと银杏は当然売っていますが、「それ以外に何が売っているのか」と聞かれた場合、答えに窮します。「稲沢市のお土産と言えこれだ」ということを市民にしっかりと教えていただき、祭りの際にも販売していただきたいと思います。「稲沢市の特産品は何か」を市民も知りたいと思います。

[委員長]

「お金を落とす場所が無い」、「お金を落とせるモノが無い」という話は、今後の大きな課題として市側も認識されています。その中で「既存のモノは市民にもちゃんと知ってもらう」、そして「買っていただく」、「飲食を利用していただく」、さらに今後もっとお金が落ちるように「様々なコンテンツの開発を商工会議所や商工会をはじめとする関係各部署の連携の下で進めていく」ことを先ほど確認しましたので、皆さんも是非ご協力をお願いします。

[委員⑦]

話が戻るかもしれませんが、お許してください。「観光入込客数」が増えている一方で、「市民の満足度」や「市への誇りや愛着度」に関する数値が伸びていないことについて、個人的にあまり不思議ではないと感じています。「なぜか」と言えば、稲沢市の場合、観光入込客数のデータは基本的に祭りの来場者数が中核となっています。そのため、市民の立場からすると、祭りははつき

り言って市外の人達が集まるイベントであって、「自分たちには関わりが無い」という意識があるのではないかと思います。「国府宮はだか祭に去年より10%も多く人が来た」と聞いても、「だから何なの？」と思う人もいると思います。市内にお金が落ちることももちろん必要ですが、一般市民の感覚として、祭りの時ではなく、日常的なまちの賑わいみたいなものが実感できるようになれば、観光に対する取組の成果として総括されるのではないかと思います。そうした部分も考えていく必要があるのではないかと思います。

もう1点、この会議に参加する中で、私自身「観光は<sup>サイトシーイング</sup>Sightseeingではない」という解釈があって、訪れる人のそこで「何を見るか」ではなく、「何が体験できるか」、「どんなことが出来るか」といった思いが「市民との効果的なコラボレーションやコミュニケーション」という部分に結び付くことで、観光を通じて新たな価値を生み出す」という方向性に繋がっていくと認識していました。現在議論が何だか<sup>サイトシーイング</sup>「Sightseeing」の側に戻ってきてしまった気がしますので、もう一度原点に立ち返って話をすべきではないかと思います。

[委員長]

『市民満足度』や『市への誇りや愛着度』の割合が下がっている」という事実について、「市ではかなり衝撃的な数字として受け止めている」と私は推察しています。今委員がおっしゃられたとおりで、この二つの数値を落としてしまっただけでは意味が無いし、「稲沢市の観光の独自性が無くなる」と感じています。ただし、一つ申し上げると、これらの数値を取っていること自体が観光分析としてすごく珍しいことで、私自身他では聞いたことがありません。稲沢市として大事な指標であるだけに、「下がっていることを深く受け止めてほしい」という委員の気持ちも理解し、これらの数値を上げるための取組を進めていく必要性を市としても肝に銘じているようです。

この点については、「取組を進める上で出会う一つのプロセスである」と私自身捉えている部分もあって、「稲沢市にこれだけ多くの人に来て」という事実が市民に浸透していけば、「自分は何が出来るか」、「もっと稲沢市の良いところを知ってもらいたい」という気持ちが市民の中で醸成される時期が来るのではないかと考えています。逆に「これらの数値を武器にして市民の意識を目覚めさせてほしい」というのが私の感じるところです。委員のご指摘のとおり、この部分を上げていく取組を市としてこれからもっとやっていただければと思います。

その他にご意見、ご質問はありますか。

特に無ければ、以上で本日の議事を終了したいと思います。ご審議いただき、また活発なご意見をいただき、ありがとうございました。

### 3 その他

[事務局]

ありがとうございました。貴重なご意見を多くいただき、大変有意義な会議であったと感じています。本日いただいたご意見を踏まえまして、「稲沢市観光まちづくりビジョン」の取組を推進してまいります。

それでは最後に、事務局から3点事務連絡をさせていただきます。はじめに次回の会議についてですが、1年後となります来年の2月中旬頃に開催させていただく予定です。会議の内容としては、本日と同じく「稲沢市観光まちづくりビジョンの進捗状況」と「次年度の取組方針」

についてご報告し、委員の皆様からご意見をいただきたいと考えております。会議の日程等につきましては、文書で改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。

2点目としまして、「第10回愛知県観光交流サミット in いなざわ」の開催お礼についてです。会議の中でもお話ししましたが、昨年11月29日に名古屋文理大学文化フォーラムをメイン会場として開催し、市内外から約900名の方々にご来場いただくなど、盛況のうちに終えることができました。今回のサミットでは、祖父江のイチョウ黄葉や国府宮はだか祭、織田信長公生誕の地「勝幡城跡」といった本市の観光資源の魅力だけでなく、大澤委員長にもご出演いただいたパネルディスカッションを通じて、「市民が主体となり観光まちづくりに取り組むまち」としての魅力も伝えることができたことが大きな成果だったのではないかと考えています。開催に当たっては、本委員会の委員の皆様にも多大なるご支援とご協力をいただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。ありがとうございました。

最後に3点目としまして。本日の会議への出席に伴う謝礼につきましては、指定の口座へ振り込ませていただきますので、よろしくお願いいたします。

以上をもちまして、会議を閉会させていただきます。本日は長時間にわたり慎重審議いただき、誠にありがとうございました。

以上